

紹

介

## 住商飼料畜産丸森 SPF 豚農場紹介

森 沢 寛 明\*

## はじめに

畜産の推進上最も重要なことは、それぞれの家畜の持つ能力を最大限に発揮させることである。換言すれば、それぞれの家畜の能力を阻害する要因は1つ1つ除去されなければならない。

養豚の現状をみると品種改良、飼料（栄養）、薬品、ワクチン、設備、管理、その他種々の豚肉生産向上の問題について研究がなされ、企業化が急速に進んできた。

しかし、多頭化の進行中に種々の問題が生じ、その内でも特に頭を痛めてきたのが公害問題と慢性疾患、すなわち豚流行性肺炎（SEP）、豚萎縮性鼻炎（AR）、豚赤痢、トキソプラズマなどによる損害である。

当社が豚肉生産の企業化を考えるうえで、上

記疾病の対策に頭を痛めた結果、その解決方法は SPF 豚よりほかにはないとの結論に達し、農林省家畜衛生試験場の指導によって昭和44年4月から子宮切断による Primary SPF 豚作出に着手し今日に至っている。

SPF 豚の生産に着手以来今日までは、当社の第一 SPF 豚農場である鬼怒川農場（SPF Swine Vol. 2 No. 1 参照）で増殖を重ねてきた。その間、種々苦勞も多かったが、SPF 豚の企業化に明るい見通しを得るに至り47年8月第二 SPF 豚農場として住商丸森農場建設に着手した。

今回は当該農場の現況と今後の構想などについて紹介したい。

## 丸森農場の環境と所在地

農場は阿武隈山系の北端に位置し、福島県と

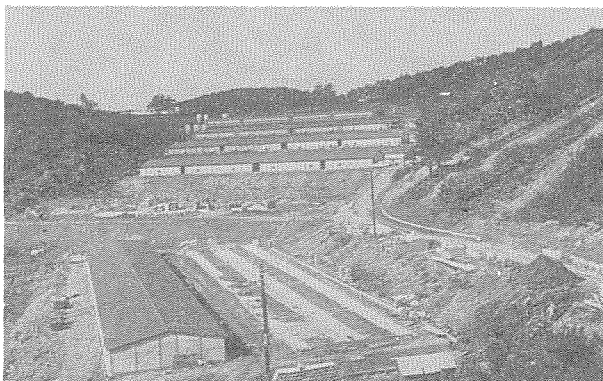


写真1 第一期工事完成

\* 住商飼料畜産(株)丸森農場

宮城県の県境近く、福島県の梁川町より13 km、宮城県の丸森町より10 kmの地点にある。写真1ではその一部が紹介されている。

敷地面積は408,000 m<sup>2</sup>、標高400~500mの南向斜面で周辺には人家も少なく、また近くにはConventional豚は1頭も飼育されていないことからSPF豚飼育の環境としては申し分な

い。なお、農場からは福島、宮城両県の平野が眺められ見晴しは非常に良く、写真2のような完備した宿舎もある。

### 丸森農場の設備計画

49年3月までにさらに増設分として下記設備を完成すべく工事を急いでいる。

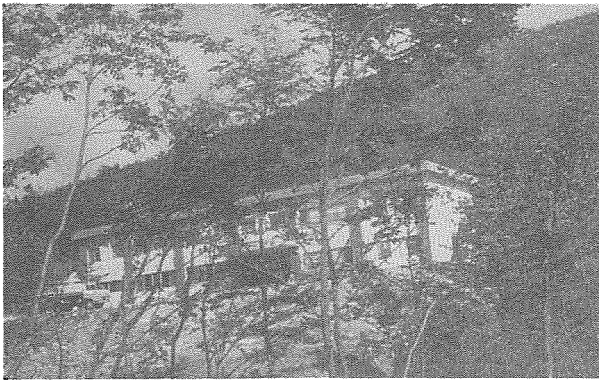


写真2 農場宿舎

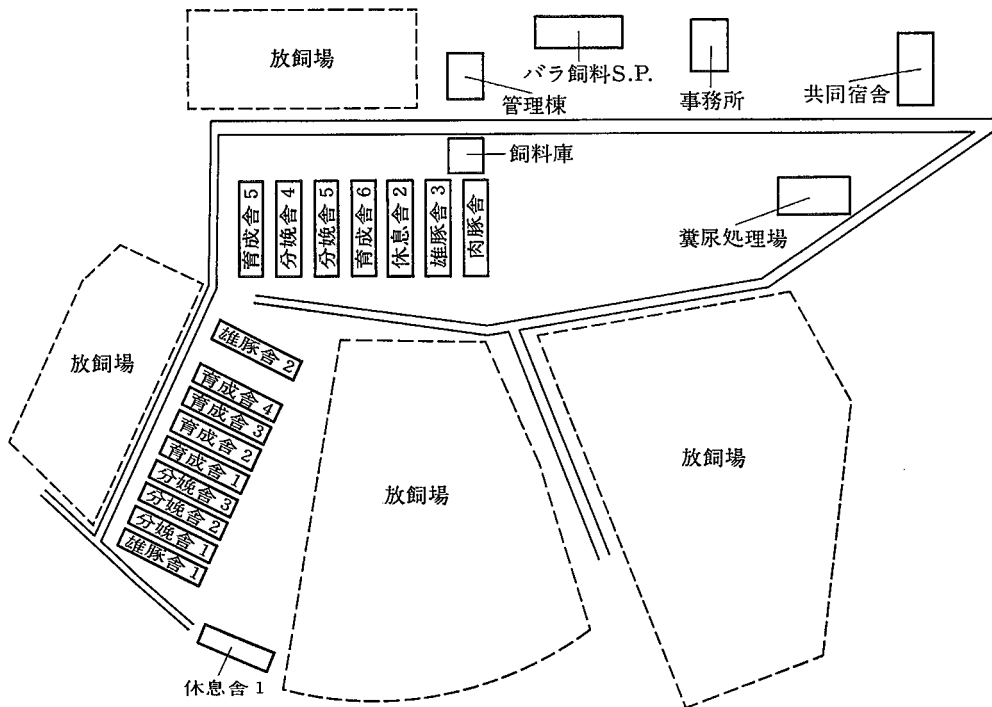


図1 住商丸森農場平面図

## 設備計画

- A) 分娩舎 600 m<sup>2</sup>× 5 棟
- B) 育成舎 660 m<sup>2</sup>× 6 棟
- C) 休息豚舎 430 m<sup>2</sup>× 2 棟
- D) 雄豚舎 875 m<sup>2</sup>× 3 棟
- E) 肥育検定豚舎 590 m<sup>2</sup>× 1 棟
- F) 放飼場 500 m<sup>2</sup>× 65 区画
- G) 飼料庫 1 棟
- H) 管理棟 (シャワー室) 1 棟
- I) 事務所 1 棟
- J) 糞尿処理設備 1 基
- K) バラ飼料ストックポイント
- L) 共同宿舎 1 棟  
(4 世帯分と独身者用 14 室)

## 設備の特徴

1. 豚舎は全棟軽量鉄骨プレハブ造りで写真 3 のような豚舎設備から成っている。
2. 分娩舎, 育成舎, 肥育検定舎はウィンドレス
3. 全棟に自動給餌機設置
4. 全棟にスノコを使用し, その下に除糞機を設置
5. 保温方法は温水によるフロア・ヒーティング (以上図 1 参照)

## 丸森農場の現状と飼養計画頭数

当農場における最終の飼養計画頭数は種母豚 1,600 頭であるが, 一部工事中であるため, 現在の飼養頭数は母豚 400 頭 (内 100 頭は育成豚), 種豚 22 頭である。

これは第一期工事が完了した 48 年 9 月に当社鬼怒川農場から導入したものであるが, 工事が完了する 49 年 3 月には再度鬼怒川農場より導入し, 当初の飼養計画頭数である母豚 1,600 頭に作る方針で作業が進められている。

第二次導入は主として育成中の種雌 (♀) 豚を導入することになるので, 1,600 頭の♀豚全頭に種付が完了するのは 49 年の秋になり, したがって丸森農場もフル稼働に入るのはその時点からと考えられる。

なお, 第一次導入の♀豚 400 頭のうち 300 頭は成豚で, すでに導入翌月の 10 月から順調に分娩を開始している。

## 今後の方針と丸森農場の機能

当社は, 今までは鬼怒川農場のみで SPF 豚の繁殖と産肉能力検定, 繁殖能力検定を実施してきたが, 丸森農場でも繁殖および産肉能力検定, 繁殖能力検定などを実施する方針である。

今までは SPF 豚の頭数も少なく, 種豚の増殖に重点がおかれてきたが, その後頭数もかなり増えてきたので, 丸森農場完成の 49 年 3 月ころからは外部への本格的な種豚供給の体制が確立することになる予定である。

SPF 豚の企業化を進めるためには, SPF 豚の種豚を供給する基地が必要である。したがって当社としては丸森農場の完成によって種豚の大量生産が可能になり, 1 農場に数百頭単位の SPF 種豚を供給することが可能となる。

現在, 当社で飼養している品種は Land



写真 3 雄舎および休息豚舎

Reace (L), Large White (W), Hamp Shire (H), Duroc (D) の4品種であるが、今後ともこの4品種が中心となろう。外部に供給する種豚は、♀では LW の  $F_1$ 、♂は H または D の方針である。したがって当社が関係する SPF 肉豚は LWH または LWD の三元が主なものとなる。

鬼怒川農場では現在 L, W, H および D の純粋繁殖と、 $F_1$  の場合は LW を生産している。一方、丸森農場でも LW の  $F_1$  生産を主とし、母豚の更新用として一部Lの純粋繁殖をしていく方針である。したがって丸森農場は LW の  $F_1$  種豚生産および産肉能力検定、繁殖能力検定などの場となり、その機能は鬼怒川農場と同格になろう。

今までは SPF 状態の維持と SPF 豚の増殖とに重点をおいてきたが、今後は SPF 状態の維持に最大の努力をすることはもちろん、産肉能力検定、繁殖能力検定の強化により選抜淘汰を強化し、また、Primary 豚作出に際しても母豚の選定を一層厳重にし、SPF 豚をより能力のたかいものにすることによって養豚業界に貢献していく方針である。

#### おわりに

SPF 豚に関する諸問題点、試験結果、管理方法などについては「SPF Swine」を始め、その他の誌上ですでに多くが発表されているため、今回これらの点については省略した。